

# クサカリツボダイ 天皇海山海域

North Pacific Armorhead, *Pentaceros wheeleri*



クサカリツボダイ（左は体高が高い着底直前の未成魚、上は着底後 2 年以上経過した体高が低い成魚）

### 管理・関係機関

北太平洋における公海の漁業資源の保存及び管理に関する条約（北太平洋漁業資源保存条約）  
北太平洋漁業委員会（NPFC）

### 生物学的特性

- 体長・体重：尾叉長 30 cm・600 g
- 寿命：8 歳
- 成熟開始年齢：2 歳
- 産卵期・産卵場：11～2 月・天皇海山海域の水深 300～500 m 水域
- 索餌場：北太平洋東部の表層域（未成魚）、天皇海山の水深 300～500 m 水域（成魚）
- 食性：カイアシ類や尾索類など（未成魚）、甲殻類、翼足類、尾索類、魚類など（成魚）
- 捕食者：調査中

### 最近の動き

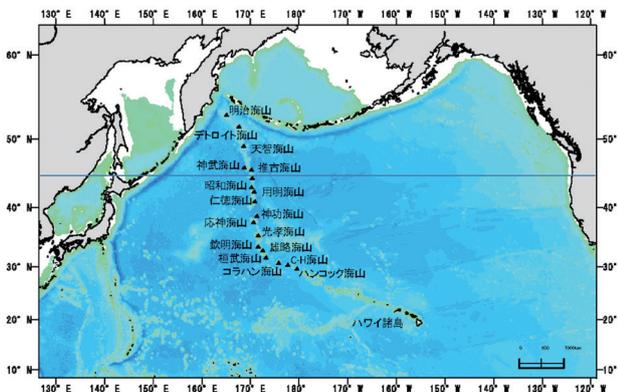
天皇海山海域におけるクサカリツボダイの漁獲量は年変動が大きく、加入が少ない年は年間 1,000 トン前後にとどまるが、2012 年には 1976 年以来 36 年振りに 2 万トンを超える漁獲量を記録した。2004 年以降卓越加入の発生頻度が増しているが、2013 年以降は加入が悪く低い漁獲量となっており、2013 年の漁獲量は 2,510 トン、2014 年は 1,334 トン、2015 年は 1,000 トンに達しない見込みである。従来の暫定・自主管理措置下での努力量制限、漁期・漁場制限に加えて、産卵親魚を確保し漁獲を安定化させるため 15,000 トンの漁獲量規制が我が国の自主措置として 2014 年 1 月に導入された。2015 年 7 月に発足した NPFC において、本種の加入状況に応じて漁獲量の上限を調整する順応的管理の検討に着手することが合意された。

### 利用・用途

冷凍ドレスを干物、みそ漬けなどに加工。

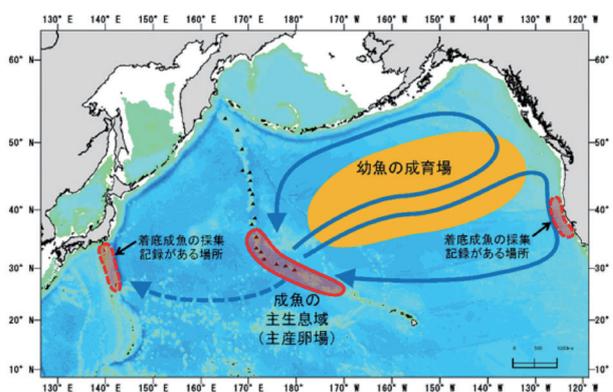
### 漁業の特徴

天皇海山海域において操業を行っている我が国の底びき網漁業及び底刺し網漁業の主対象魚種であり、その他にキンメダイ、オオメマトウダイ、メダイ類などが漁獲されている。底びき網漁船は水深 300～500 m の平頂海山の頂上部で操業し、底刺し網漁船は海山斜面域や水深が深い海山で操業を行っている。



天皇海山海域の主要海山群

（現在北緯 45 度以北、C-H 海山及び光孝海山南東部は操業禁止となっており、ハンコック海山より南東は米国 EEZ 内にある）



クサカリツボダイの産卵場及び回遊経路の模式図

(Kiyota et al. 2016 を改変)

漁獲の動向

1967年に旧ソ連が天皇海山漁場を開発し、我が国は1969年から底びき網漁業を行っている。我が国の漁獲量は1976年までの間は1～3万トンの高い水準を維持したが、1978年以降急激に減少した。その後は1,000トン前後の低い漁獲量で推移したが、1992～1993年と2004年、2010年、2012年には漁獲量が一時的に急増し、卓越年級群が加入したと考えられている。

資源状態

1970年代前半の開発当初に比べ、その後の漁獲量は低く、数年から10数年に一度現れる卓越年級がない年は、千トン前後の漁獲量にとどまっていたことから、開発当初と比べると、1980年代以降の資源量は低いレベルにあると判断される。特に1994～2003年までの10年間は卓越加入が現れず、非常に低いレベルにあった。しかし2004年、2008年、2010年、2012年の漁獲量は6,000～21,000トンと高く、卓越加入の発生頻度が近年増したことを示している。しかし、2013～2015年は一転して加入が低い状態が続いている。加入の多寡にかかわらず漁獲率が高く、加入魚の約9割が産卵前に漁獲されている。

管理方策

クサカリツボダイは、その生物学的特性によって、コホート解析や余剰生産モデルを用いた資源解析を行うことが困難である。そこで、同様に漁獲されるキンメダイの資源解析結果に基づき、クサカリツボダイの産卵親魚の確保と卓越年級の発生を促進する効果が期待できるよう、1997～2006年の平均漁獲努力量の20%を削減するとともに、本種の産卵時期に当たる11～12月が努力量の削減時期(禁漁期)となっている。さらにC-H海山における操業禁止や、漁船数の現状凍結などの暫定・自主管理措置も導入されている。2015年7月にNPFCが発足し、加入量に応じて漁獲量の上限を調整する順応的管理の導入を検討することが合意された。

資源評価のまとめ

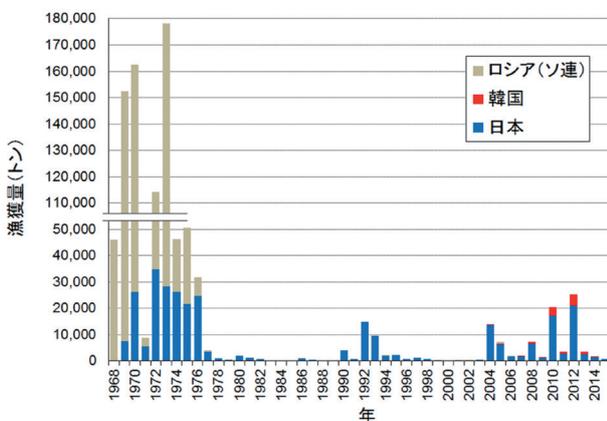
- 1970年代の開発当初に比べ、資源量は低水準。
- 卓越加入の有無による年変動が大きい(2013～2015年の加入は低水準)。
- 漁獲率が高く加入魚の約9割が産卵前に漁獲される。

管理方策のまとめ

- 最大漁獲努力量(底びき網年間総操業時間5,600時間以下)の設定、産卵時期である11、12月の禁漁。
- C-H海山を暫定的操業禁止海域に設定。
- 操業許可漁船数の現状維持。
- 15,000トンの年間総漁獲量上限を我が国自主管理措置として導入(2014年1月)。
- 加入に応じて漁獲量の上限を調整する順応的管理の導入を検討予定。

クサカリツボダイ(天皇海山海域)の資源の現況(要約表)

| 資源水準           | 低 位  |
|----------------|--|
| 資源動向           | 卓越加入の有無による年変動が大きい<br>卓越加入の発生頻度は近年増加していたが、2013～2015年の加入は低水準であった |
| 世界の漁獲量(最近5年間)  | 1,738～25,355トン<br>平均：10,871トン<br>(2010～2014年)                  |
| 我が国の漁獲量(最近5年間) | 1,334～20,867トン<br>平均：8,930トン<br>(2010～2014年)                   |
| 最新の資源評価年       | 2014年  |
| 次回の資源評価年       | 2016年  |



天皇海山海域におけるクサカリツボダイ国別漁獲量の経年変化